

記入例

第63回（令和7年度）北海道優良米生産出荷共励会 推薦調書
「直播栽培部門」・個人の部

推薦者 ○○地区米麦改良協会 会長理事 ○○ ○夫 印

調書の内容は誤りのないことを確認した。

振興局 農業改良普及センター 所長 ○○ ○平 印

検査（出荷）実績を証明する。

農産物検査員

北海道農産協会所属

J A ○ ○ 農産物検査員 ○ ○ ○ 雄 印

1 対象者 (ふりがな) ほっかいどうまるまるぐんまるまるまちあざいちばんにじゅうさんごう
住所 北海道○○郡○○町字○○1番23号
(ふりがな) まるやま まるじ
氏名 ○山 ○次

2 経営状況 耕地面積 21.2 ha (注) 田・畑などの合計面積

年次 項目	令和5年	令和6年	令和7年	3カ年の平均
水稲作付面積	1.2 ha (8.3)	1.2 ha (8.0)	1.2 ha (7.5)	1.2 ha (7.9)

注1) 移植栽培を含む、水稲作付全面積。※加工用米等面積も含める。()は移植栽培面積。
注2) 今年を含む直近3年間。ただしその間、作付不可能の事由がある場合を除く。

3 家族の就業状況（令和7年12月○日現在）

本人・続柄	年齢	令和5年	令和6年	令和7年
本人	49	○	○	○
妻	46	○	○	○
父	77	○	—	—
長男	21	—	—	○
(備考)				

4 耕種概要

(1) 直播区分（湛水直播・乾田直播の別）および直播作付品種

区分	年次	令和5年	令和6年	令和7年
	品種名（用途）			
湛水直播				
	合計			
乾田直播	大地の星（業務）	3.7	4.0	4.5
	合計	3.7	4.0	4.5
直播合計		3.7	4.0	4.5
(備考)				

注1) 加工用米、新規需要米、政府備蓄米を除く作付面積を記入する。ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする（飼料用米は不可）。
注2) 品種名の後の用途は、一般または業務とする。

(2) 融雪促進、土作り等

年次		令和5年	令和6年	令和7年
融雪促進または 土壌改良材(kg/10a)	資材名	ケイカル	ケイカル	ケイカル
	施用量	100kg	100kg	100kg
透排水性改善		心土破碎	心土破碎	心土破碎
稲わらの処理法	前年産	春鋤込	10%	%
	当年産	搬出	%	100%
		秋鋤込	90%	%
堆厩肥施用量(kg/10a)		1,000kg	1,000kg	1,000kg
(備考) 心土破碎とあわせて、毎年溝切りも実施				

注) 「稲わらの処理法」の欄の%は、直播面積に対する割合。

土壌改良材については、具体的製品名を書く。

(3) 施肥量等

年次		令和5年			令和6年			令和7年		
項目		N	P	K	N	P	K	N	P	K
基肥 (kg/10a)	全層	8.0	7.3	7.3	8.0	7.3	7.3	8.0	7.3	7.3
	表層									
	側条									
追肥	kg/10a	3.6			3.6			3.6		
	期日	6.25			6.24			6.23		
(備考) 3カ年とも倒伏なし										

注) 肥料銘柄(肥効調節型等)、倒伏程度を備考欄に記載する。

(4) 出芽促進技術(種子予措・落水期間等) 苗立ち確保技術、播種時期、播種量等

年次		令和5年	令和6年	令和7年
項目		令和5年	令和6年	令和7年
播種方法		乾田ドリル播種	乾田ドリル播種	乾田ドリル播種
出芽方法		落水出芽	落水出芽	落水出芽
種子予措	種子消毒剤	なし	なし	なし
	カルバー粉衣% (乾糶比)	なし %	なし %	なし %
	その他	なし	なし	なし
播種時期		5月 14日～ 月 日	5月 13日～ 月 日	5月 12日～ 月 日
播種量(乾糶換算重)		12 kg/10a	12 kg/10a	12 kg/10a
(備考) 播種後 2日間程度入水後、落水。 落水期間 R3 :17日間(出芽5/25) R4 :出芽5/27頃までに土壌水分に合わせて数回走水を行った。R5 :出芽5/22頃までに、土壌水分に合わせて走水、水持ちの良いほ場は15日間落水				

注) 種子予措の該当しない項目は、「なし」と記載する。落水期間(または走り水)を備考に記載する。

(圃場環境の整備)

- ・均平施工 有 (R5年) ・ 無
- ・田畑輪換又は移植栽培との交換 有 (R6年) ・ 無
- ・漏水対策 有 (毎年) ・ 無

(5) 除草剤・生育調節剤等

除草剤名等	処理時期	効果	残草程度・種類等
①ラウンドアップマックスロード	5月30日	大	少
②ラウンドアップマックスロード	6月5日	大	微
③			
④			
(備考)			

(6) 乾燥方式 (該当項目の・を○で囲む)

- ・ 連続乾燥 (年～ 年)
- ・ 一時乾燥→貯留→仕上げ乾燥 (2 年～ 7 年)
- ・ 遠赤外線乾燥 (年～ 年)
- ・ 除湿乾燥 (年～ 年)

5. 産米出荷成績

項目	年次	令和5年	令和6年	令和7年	3ヵ年の合計
	総出荷数量 ①		420俵	450俵	490俵
製品出荷数量 ②		370俵	400俵	450俵	1220俵
一等米数量 ③		370俵	400俵	450俵	1220俵
一等米比率 ③/②		100%	100%	100%	100%

注) 俵数は60kgに換算のこと。

①の数量は直播栽培面積からのすべての出荷数量(規格外・加工用米等を含む)を記入し、

②③の数量は、加工用米及び規格外米、新規需要米・政府備蓄米を除く出荷数量、一等米数量とする。

ただし、生産出荷管理において、主食用米と同一の管理であれば、対象とできるものとする(飼料用米は不可)。

6. 病虫害防除の実施状況

- (1) 病虫害の発生状況を的確に把握し、発生対応型防除に努めている。
- (2) いもち病に関しては、ブラスタムの活用およびほ場の見回りを実施。
- (3) カメムシに関しては、すくい取りによるモニタリングを利用。

7. 直播栽培に当たっての創意工夫のある取り組み等(低タンパク米生産等の取り組みも含む、具体的に記載して下さい。)

- (1) 田畑輪換による還元田の窒素発現を利用して、直播栽培の収量向上に努めている。
- (2) 深根性の作物(デントコーン等)を輪作に取り入れて耕盤層を破碎し、土壌物理性の改善に結びつけている。
- (3) 残渣物の鋤込みにより、地力維持に努めている。

8. 直播栽培に係わる経営的な視点(具体的に記載して下さい。)

- (1) 春先の労働競合が軽減されるため、野菜等を取り入れた複合経営の取り組みが容易になった。
- (2) 適正な輪作体系が組めるため、連作による他作物の病虫害の多発や収量低下が軽減されたことが、経営の安定化に役立っている。
- (3) 耕畜連携の取り組みが必要であるが、堆厩肥の入手が容易となった。
- (4) 播種機の共同利用により機械への投資額が減り、・・・。
・その他、別記参照

9. 添付書類

(1) 令和7年産米栽培履歴

以上

上記内容について、第63回（令和7年度）北海道優良米生産出荷共励会実施要領に基づき、一般社団法人北海道農産協会へ提出する事を認めます。

入賞発表、優良事例報告書、会報、ホームページ等で優良事例として生産者の氏名他推薦調書の内容を広報することを認めます。

令和7年 ○○月○○日

住所 北海道○○郡○○町字○○1番23号

氏名 ○山 ○次 印

(別記)

経営の観点の記入例

1. コスト低減の取り組み

(1) 省資材

- ・ J Aおよび普及センター指導の下で毎年ほ場毎に行っている土壌診断結果に基づき、肥料銘柄の選定、施肥量の調整を実施して、適正施肥・肥料コスト低減に努めている。

(2) 共同利用その他

- ・ 機械・倉庫設備の償却資産の延長を図り、機械修理等については自ら実施し必要最小限の修理コストでの機械管理を行っている。
- ・ 低コスト生産を目的として、乾燥調製施設、コンバイン、ドローン等の共同利用が各地区で行われている。乾燥調製においては、4施設あり、11戸1法人が共同利用している。

2. 適期作業、適期防除の取組

- ・ J Aや普及センターから随時発信される営農技術情報を活用して、適期作業に努めている。
- ・ 病虫害防除では発生対応型防除を心がけ、適期防除を実践し、環境等の配慮から追加防除をしないよう努力している。